■キャラクター　ファイル　No.2

ジェシカ :20代女性/宿泊客

本名:ジェシカ＝ブロード

■背景

私は高校の地理教師だ。

私には双子の妹がいる。私たちの母親は、ホテルを経営していたが、ある日突然何者かに殺害されてしまった。

事件は迷宮入りとなり、残った私たち双子はそれぞれ別の里親に貰われ散り散りとなってしまった。

それ以来音信の無かった2人だが、半年前…双子の妹より手紙が届く。

その手紙によると、妹は昔 母親が経営していたホテルで従業員として働いているらしい。そのホテルは当時 副支配人であったジャックの手に渡っていた。

だが妹の手紙によって私はさらに衝撃の事実を知ることになる。

母親を殺害したのは、ジャックだというのだ。しかも彼は、不法に改ざんされた【土地の権利書】を裁判に申し立て、ホテルを手に入れたというのだ。

妹はそのホテルの何所かにあるはずの【土地の権利書】を探す手伝いをしてほしいと言ってきた。

ホテルには常に施錠された部屋があり、きっとその中に目的のモノはあるだろう。しかし、開錠するためにはジャックしか知らない4桁の数字を入力する必要があり、その番号は彼の所持している手帳に書いてあるという。

以前一度だけ妹はその番号のメモを見たらしいのだが、暗号化されていてよく分からなかったという。

私は、同僚のモルフィスに「秘密の財宝があるホテルがあるから一緒に探してほしい」と打ち明け、このホテルに宿泊客として2人で訪れることにした。

モルフィスは数学の教師で、きっと暗号解読の助けになるだろう。そして彼はどうやら私に気があるらしい。うまく口車に乗せれば、何かあった時頼りになるかも。

妹の頼みである、【土地の権利書】を手に入れ、ホテルは取り戻したい。

だが私は、ジャックという男が許せそうになかった。

あなたのパワーポイント
7

※パワーポイントは、目的の証拠を手に入れるために必要になる可能性があります。

※このパワーポイントは各自で管理してください。

■事件のファイル

　私は、モルフィスと共に日の明るいうちにホテルにチェックインした。
表向きは、高校の林間学校の事前調査という事にしているが、こんな小さなホテルじゃあ、
1クラスの半分も泊まれないだろう。
　チェックイン時には、キャシーと名札を付けた女性が受付をしてくれる。
金髪でロングヘアのとても可愛らしい女性だ。私は彼女が双子の妹であると即座に感じる。
　宿帳でペンを握る時にはめた指サックが、なんだか気持ち悪い感触がした。

■19:00　(11月1日)
　モルフィスと共にディナーをとるため、大広間にやってきた。
テーブルには宿泊客の人数分、食器が並べられていた。察するに、今夜の宿泊客は4人しか居ないらしい。
　私たち二人以外に、50代の男性が既に席についていた。
　食事の給仕は支配人のジャックと、キャシーが交代で行うようだ。

　まずはキャシーがお酒の注文に来る。私は赤ワイン、モルフィスはビールを注文した。

　ジャックは年配の老人であったが、本日のメニューを懇切丁寧に説明してくれた。
しかし私は彼を見ているうちに、私の家族を破滅させたという怒りが沸き起こり…彼を今すぐにでも殺してしまいたいという衝動に駆られたのであった。

■20:00
「気分が悪いから」 私はモルフィスに断って席をたった。
私をひきとめるように赤ワインをまた進めてきたが、実際もう我慢ができなかった。
私は……彼を……ジャックを…やはり許すことはできない。

　自室に戻り、事前に用意してあった物を取り出す。
皮手袋をし、変装用のウィック(金髪ロングのかつら)と、従業員用の衣服を羽織る。
これで、少なくとも遠目には双子のキャシーに見えるはずだ。
そしてナイフを懐に忍ばせ…　私は自室を後にした。

■20:30
　私は1階の廊下でジャックの姿を見かけた。

「ジャック…話があるの。」 少し俯いて彼に話しかける。
予想通り、ジャックは私の姿を見て妹のキャシーと勘違いしたようであった。

「どうしたんだい、キャシー?　大広間で何かあったのかい?」
心配そうに私の肩に手をふれながら、彼は小ホールの鍵を開けて中に導く。

　"チャンスだ。"

　心の中で高揚感が踊る。
　私は…懐に持っていたナイフを躍らせ、ジャックをめった刺しにした。

　ひとつ…　ふたつ…　みっつ…　よっつ　数えきれないくらいナイフをつきたてる。

　おまえなんか…　しんでしまえ…　　しんでしまえ…　しんで当然だ…

■21:00～?
　気が付くと、あたり一面に鮮血が飛び散っていた。

 なんだか一瞬の出来事であったようであり、数時間の出来事であったかのようだ。

いつの間にか腕を誰かに掴まれ、歩いていた。
　『おいっ!キャシー　しっかりしろ。』その誰が呼び掛ける。

私はキャシーじゃないのに。そういえば子供の頃、父親にもよく間違われていた。

　…父親…?　そういえばどんな人だっただろう。　今まですっかり忘れていた。

■22:15
目が覚めた。ベッドの上で…どうやら眠っていたらしい。
ここはどこだろう。時計を見ると22時15分を過ぎたころだ。

自分の部屋ではない。 頭がぼうっとして猛烈に眠い。

私はそっと部屋から廊下に出た。ここがどこの部屋か分からないが、誰にも見つからずに
帰らなくては。

■22:20
自分の部屋にたどり着く。誰にも見られなかった…と思う。安堵感で、またベッドに横になった。

■22:45
再三眠りかけたところで、部屋がノックされる。

部屋のドアを開けると、そこにはモルフィスが居た。
彼は私の顔を見ると、驚いた奇声をあげる。

…もしかして、身体に返り血でもついていたか!?

一瞬不安がよぎる…が、彼はすぐにとり直して、「これから飲み直さないか?」 と誘ってきた。

しかしその直後、3号室の扉から中年女性が、私たちの話声を聞いたのか顔をだしてきた。
「一体どうされたんですか?」
その声に我に返ったモルフィスは、彼女に何か言い訳をすると自室に帰って行った。

猛烈に眠い。

その後再び私はベッドで眠りについた。

■5:50 (11月2日)
目が覚めた。 まだ頭がぼ～とする。 鏡を見た私は…まだロングのウィッグを被っている事に気が付く。
もしかして昨晩、モルフィスが驚いたのはこのせいだろうか。

そういえば・・・ジャックを刺殺したナイフはどこにいっただろう?
部屋のどこを探しても見つからなかった。

考えをめぐらしていたその時、下階から女性の悲鳴が響いた。

■ジェシカの情報

①キャシーからもらった手紙
私はキャシー、18年前に離れ離れになった貴女の妹です。
私たちのお母さんは、私たちが離れ離れになった18年前…とある小さなホテルで起きた事件で殺されてしまった。殺したのは多分、当時副支配人であったジャックという男だと思うわ。
私はこの半年間、このジャックの経営するホテル…つまりお母さんの経営していた私たちのホテルで住み込みで働いているの。18年前の事件を密かに調べるためにね。
そして、助けて欲しい。一緒にジャックの不正を暴き、裁きを与えるために。

■あなたの目的

ジャックは倒した。あとはうまく土地の権利書を回収し、ホテルを取り戻そう。

第1目標 勝ち点6	自分以外の人間を犯人として拘束する。

※最終投票で自分以外の人間が拘束される。

第2目標 勝ち点3	【土地の権利書】を手に入れよう。

※エンディング時に、ジェシカまたはキャシーが【土地の権利書】を持っている。

第3目標 勝ち点1	【ナイフ】の回収

※エンディング時に、アイテム【ナイフ】を持っている。

■あなたの初期所持品　(自室に置いてある物)

① 革手袋　…手袋をした状態では指紋を残さない。
② 金髪ロングのウィッグ　…昨晩 変装にもちいたカツラ。
③ 地理の参考書　…　放射冷却現象について
　深い霧につつまれた場所では、温度が周囲よりも下がる現象について解説
④ 妹からの手紙　…【わたしたちの母親を殺害したのは、ジャックなのよ。】

■あなたの固有アクション　(探索フェーズで使用可能)

●覗き見る

●効果…対象の所持品を、対象の意思に関わらず覗き見ることが出来ます。

※探索フェーズで「固有アクション使用」と宣言をする事で使用できます。
　このアクションを使用する際には、固有アクションの内容を周囲に宣言する必要があります。

※このアクションは、1フェーズに一度のみ使用する事ができます。

※使用するための条件となるアイテムはありません。

このアクションを行った場合、対象の"所持品"を"自分だけ見る"事が出来ます。
この行動でカードを全体公開させる事は出来ません。

■プレイのワンポイントアドバイス

記憶をひとつひとつ辿り、少しずつミスリードを見つけ出せば、周囲の目を貴女からそむられるかもしれない。
初期に他の人に渡るとまずいアイテムは、人に渡らないように守り抜こう。
信頼できる人間はいったい誰だろう。